

議会だより

あしや

No.224

令和7年
2月25日発行

安心安全な町へ



芦屋町消防団の皆さま

12月
定例会

新年のあいさつ	2P
12月定例会	4P
町政を問う一般質問	7P
議会活動報告	16P

表紙の関連記事は18ページに掲載しています。

新年のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

令和7年の輝かしい新春を皆さまとともに迎えられることを心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、町政の発展、そして町議会の運営に対し、温かいご理解とご協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

新しい年を迎え、芦屋町議会としましては、引き続き町民の皆さまの声を第一に考え、地域の課題解決や未来に向けたまちづくりに全力を尽くしてまいります。住み良い芦屋町を築くため、町民の皆さまの変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとって健康で幸多き1年となりますことを心より祈念申し上げ、新年のあいさつといたします。

妹川 征男



真

義を見てせざるは勇無きなり。何事にも「真実一路、真相究明」の立ち位置で！

中西 智昭



栄

「町が栄える」活気ある町を目指し、経済的にも精神的にも伸び伸びと暮らせる町となれるように。

貝掛 俊之



和

「和して同ぜず」を基本に相手の方を思いやり、「和」を持って議論していきます。

川上 誠一



峰

日々の議会活動はあくまでも地道な一步一步、視線の先に「未踏の峰」を展望しながら歩いていく。

松岡 泉



人

人材なくして、地域のなりわいはない。未来に向かって、「人づくり」に挑戦する。

辻本 一夫



成

これまでの知見を生かし、目標と思いへの実現に向け、ベストを尽くす1年！

今年の漢字

議長
内海 猛年



安

安全安心に皆さまが過ごせることが我々の責務です。

香田
一之



踊

今年も、やなこと忘れて踊ろじゃないかって気持ちで楽しいこーっ。なんとかなるさ！

本田
浩



志

住んで良かった町づくりの目的に向かって地域の方々とともに創造し進んで行動していく。

田中
太



駆

優しさと思いやりを持って、1分1秒を大切に全力で駆け抜ける1年にしていきたいと思います。

萩原
洋子



挑

今年もいろいろなことにチャレンジし、公私ともに充実した1年にしたいと思います！

長島
毅



映

映える場所、歴史、人のPRを推進。人の想いを反映させる。映画製作をもう一度。



今年の抱負を漢字1文字で聞いたっちゃ！

12月定例会

12月5日～16日

保育料無償化決定

子育て支援の拡充

条例

◆第2子以降の保育料無償化

すでに幼児教育・保育は無償化（3歳児以上）されていますが、アンケート調査で0～2歳児の保育料軽減の要望が多くあったため、近隣自治体の状況も踏まえ、令和7年4月から第2子以降の保育料の無償化と第1子の保育料の軽減幅を拡大します。

問 第1子の保育料も無償化すると町の負担はどのようになるのか。

答 約1000万円増え、合計3500万円ほどの負担となる。



山形彩乃さん（柏原区）

物価も上がり、その分生活費に充てられるのでとてもありがたいです。芦屋町に住んで子どもを産んでたくさんの支援があり、周りの友人からもうらやましがられます。

問 給食費はどうなっているのか。

答 0～2歳児は保育料に含まれ、3歳児以上は6000円程度となっている。

問 給食費（副食費）を無償化すると町の負担は。

答 1440万円ほどの負担となる。

◆芦屋町法定外公物管理条例の制定

芦屋町の法定外公物の管理に必要な事項を定めることになりました。法定外公物とは次に掲げる町の所有に属するものです。

- ① 道路法の適用を受けない道路
 - ② 河川法の適用や準用を受けない河川
 - ③ 湖沼、ため池、水路その他の土地または水面
 - ④ 前3号に掲げるものに付属する工作物、物件または施設
- 令和7年4月1日から施行されます。

賛成

町行政を磨く条例となれ

妹川 征男議員



国有財産であった法定外公物は平成17年までに市町村に譲与。その当時の担当課が条例化をはかり適用させていけば、令和3年山鹿地区の農業用水路（町有地）の無断埋め立て事件の未解決および問題の放置を招くことはなかった。議案の条例は町有財産の町民の利用の保護や町の実務に資する意義を有する。今後関係部署への徹底がはかれ、該当する里道や水路が厳格に管理されることを望む。

アッシーの議会豆知識



質疑とは

議会で審議する案件を本会議や委員会でたずねること。

「笑」

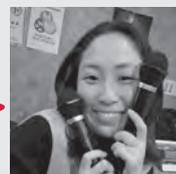
笑う門には福来る



松尾美佐さん（50歳代）

「断」

お酒を断つ！



さゆりさん（30歳代）

一言イッパピョ

今年の漢字は？

補正

◆あしや砂像展 実行委員会補助金

(補正額：1700万円増額)

問 あしや砂像展実行委員会補助金の増額理由は。

答 17日間の開催予定だったが大雨の影響により中止せざるを得なくなり、来場者数減少のため補助金を増額する。

問 補正額1700万円の根拠は。

答 予定では入場料収入を2600万円ほど算出していたが、砂像展の中止により収益が約600万円、歳出で約300万円の減額があったため、不足分の1700万円を補正した。

問 砂像展の来年の開催はどうするのか。

答 なるべく早い時期に結論は出すが、基本的には開催の方向で考えている。

人事

◆教育委員会委員 の任命

井上弘行氏の任期が令和7年1月31日で満了となるため、再度任命します。



意見書

◆公営競技納付金 制度の廃止に関する 意見書

■提出者
辻本 一夫
■賛成者
本田 浩

公営競技納付金制度は昭和45年度に創設されました。これは公営競技を施行する団体と非施行団体との行政水準、財政力の不均衡が問題となったため、公営競技収益の均てん化を目的に10年の期限措置として導入されましたが、その後、累次にわたり期限延長されてきています。

地方公共団体の社会資本整備貸付利率の利下げ財源として、モーターボート競走事業施行者がこれまで地方公共団体金融機構に納付した金額は約6000億円で、他の公営競技施行者分を含めた地方公共団体健全化基金積立額は、約9000億円以上と膨大な金額であり、さらにここ数年は基金への積み立てが行われるなど十分に所期の目的を達せられたと考えます。

以上のことから、総務省に対して公営競技納付金制度の廃止を強く求めるものです。



レースの様子



いい年になりそうっちゃ！

「貫」
新年の思いを貫く



小田利夫さん (64歳)

意見がわかれた議案の賛否一覧

議案の賛否を掲載しています。掲載のない議案は、満場一致で可決されました。

※議長には、賛否の意思表示をする表決権がありません。

ただし、賛成・反対が同数になった場合、可否を決める裁決権があります。

12月定例会

今定例会では12議案が上程され、全て満場一致で可決されました。

1月臨時会

今臨時会では8議案が上程され、全て満場一致で可決されました。

1月臨時会

1月17日

補正

◆物価高騰対策 給付金

国の物価高騰対策で令和6年度住民税非課税世帯に対し1世帯に3万円給付します。また、支給対象世帯のうち、18歳以下の児童がいる世帯に対し、児童1人に2万円を給付します。

問 非課税世帯以外にも生活が苦しく、ギリギリの生活をしている世帯もあるがその世帯への支援は。

答 物価高騰でさまざまな影響を受けている住民に対しては、町内で使える商品券（1人1万円分）を給付する。

◆注1 ワンヘルスの推進 に関する決議案 が可決！

■提出者

長島 毅

■賛成者

中西 智昭

本議会は本町に対し、福岡県で制定された「福岡県ワンヘルス推進基本条例」の具現化をはかるため取り組むよう強く求める「ワンヘルスの推進に関する決議案」を提出し、満場一致で可決されました。

注1

ワンヘルス：「人と動物の健康と環境の健全性は1つ」と捉えて、これらを一体的に守っていくという考え方。



FUKUOKA ONE HEALTH

ワンヘルスロゴマーク

賛成

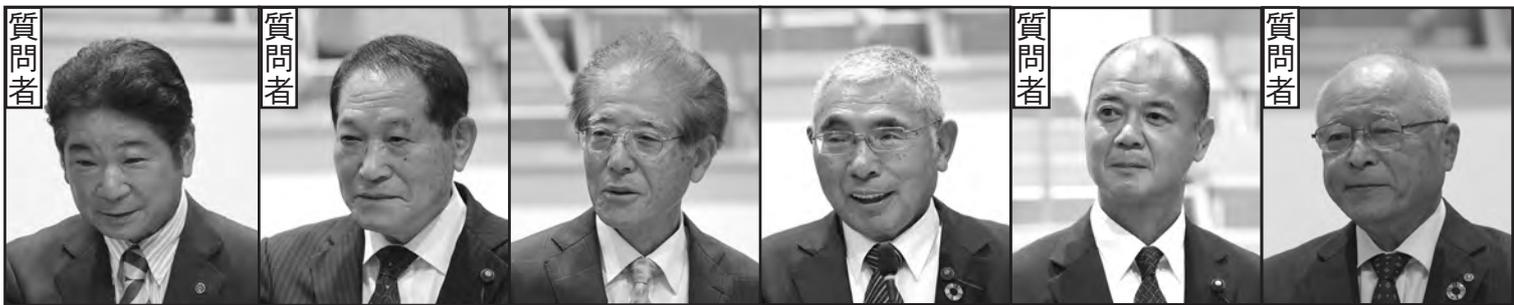
ワンヘルスの推進に賛成

本田 浩議員

ワンヘルスは人、動物、生態系の健康一体として動物由来の感染症を防ぐ考え方である。記憶に新しい新型コロナウイルス感染症もこの1つとして考えられている。芦屋町もワンヘルスの理念に基づき住民一体として連携や支援が必要である。

BCP（芦屋町議会業務継続計画）を策定しました。

大規模災害時においても議会が迅速に機能回復を図り、多様な町民ニーズを的確に反映した復旧・復興に早急に取り組むことを目的に、議会と議員の役割や行動基準を定めたBCPを策定しました。



町政を問う 一般質問



一般質問会議録

12月6日、9日に8人が一般質問を行いました。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来に対する方針などの所信を聞き、報告や説明を求め、疑問点をたずねることです。

ページ	質問議員	質問事項
8	松岡 泉	◎ 学校教育での電子図書館の活用 ◎ 奨学金返済支援制度の導入 ◎ 通学路の安全確保
9	本田 浩	◎ 芦屋町の安全・安心対策
10	萩原 洋子	◎ 中央グラウンドの改修 ◎ 西方荒波対策 ○ 予算編成
11	田中 太	◎ 町営住宅長寿命化計画
12	川上 誠一	◎ 遠賀川流域から出る海岸漂着ごみ ◎ ワンヘルス推進宣言 ◎ 狩尾岬沖の船舶座礁事故
13	辻本 一夫	◎ あしや砂像展の今後の在り方 ◎ 山鹿排水機場の排水ポンプの処理能力
14	長島 毅	◎ 町民の生活習慣病の傾向と対策
15	貝掛 俊之	◎ 公営企業（下水道事業・ポートルース事業）

◎：記事掲載あり ○：記事掲載なし

議会だよりは要約しています。詳しくはホームページの会議録や録画中継でご確認ください。





まつおか いずみ 松岡 泉

録画中継

学校教育での電子図書館の活用

電子図書館の活用は

学校教育課長

学校の意見を尊重しつつ検討

問 学校教育での電子図書館の利用は、教育の質や学習環境を向上させることにつながるがその意義は何か。

答 学校教育で電子図書館を利用することは、多くの利点と意義がある。主なものは次の点である。①膨大な量の書籍や資料に触れることができ、自分のペースで学べる。②地域や家庭の経済状況にかかわらず、全ての児童生徒が同じ情報を得ることができる。③文字の拡大、音声読み上げ機能など、特別な支援が必要な児童生徒にも適応できる。

問 環境を整備して子どもたちの学びの機会を充実させる必要がある。電子図書館の活用の見解は。

答 学校側の意向を尊重しつつ、生涯学習課とも連携し、広域電子図書館の活用ができる環境づくりに努め、電子図書館の活用を検討する。

問 町が目指す将来像「人を育み未来につなぐあしやまち」の人材の発掘、育成の展望をどう見ているのか。

答 関係団体や関係機関などと連携した情報発信、相談や学習機会の提供を行っているが、あらゆる分野において担い手の確保、次世代への継承が喫緊の課題となっている状況に

奨学金返済支援制度の導入



遠賀郡の広域電子図書館が設置されている水巻町図書館

変わりはない。

問 地方で暮らす若者を対象に大学など在学习中に貸与された奨学金の返済を自治体が支援する奨学金返済支援制度を導入しているところがあるが、

答 人材確保などを目的に、当該制度を導入する自治体も一定数あることから、導入効果、公平性や他の施策との優先順位を含め、調査研究を行う必要がある。

通学路の安全確保

問 芦屋小学校出口から中学校への歩道や中学校周辺の通学路は、表面が滑りやすく、雨天時には不安全であるとの要望が町民から出されているが、

答 アスファルトの打ち替えなどの安全対策工事を計画しており、令和8年度までに全て行う予定である。

本
田
浩



録画中継

芦屋町の安全・安心対策

栗屋区公民館前の安全対策は

環境住宅課長

関係機関に要望書を提出

問 登下校時の児童・生徒の安全対策は。

答 小学校区青少年健全育成会議のみまもり隊や個人ボランティア、自治防犯組合が通学路で安全確保を行っている。

問 小中学生は判断力や注意力が十分でない。道路横断をどう指導しているのか。

答 小学校では学級活動で交通ルールの指導を行い警察官などから交通安全の指導を受けている。中学校は全校集会で交通安全指導を行っている。

問 地域の交通指導の人と学校や役場関係部署との情報交換が重要である。情報交換の会議を検討してはどうか。

答 不審者情報は広く周知され、同様に交通安全の情報も各団体内で共有化されていると推察している。情報交換の場を設けることは手法や対象範囲を含めて判断していく。

問 夜間巡回は地域住民の交通、犯罪や火災の防止など

答 多方面で有効な施策であるが、夜間巡回は大変意義深い取り組みである。防犯パトロール参加者は高齢者が大多数を占めている。次世代へ継承できるように、また自治区活動に若い世代が参加できるよう、区長会や自治区内で協議検討を重ね努力していくことが肝要と考える。



栗屋区公民館前付近

問 栗屋区公民館前の信号機は危険と隣り合わせの場所である。芦屋町交通安全推進協議会としてどのような要望を提出したのか。

答 折尾警察署には信号無視、速度違反対策としてパトカー・白バイによる定期的な取り締まり強化と、信号機見落とし防止のための電光掲示板設置を要望。県土整備事務所には速度注意喚起のための回転灯設置と信号機見落とし防止電光掲示板設置を要望した。

問 要望書の内容は栗屋区の地域住民の要望を満足に反映しているのか。

答 押しボタン式信号を半感応式信号に変更してほしい旨の要望は折尾警察署に相談している。国道と側道の交通量の差がありすぎ、変更できない旨の回答をいただいたばかりなので折尾警察署への要望書には記載していない。

萩原洋子
はぎわら ひろこ

録画中継



西方荒波対策

柏原西方海岸の荒波対策は

産業観光課長

後戻りのない対策を進める

問 柏原西方海岸周辺の住宅は今も荒波の被害を受け続けている。荒波の状況は。

答 荒波は季節風が強くなる11月から2月にかけて特に多く、西から北西の風が10メートル以上吹いた場合、護岸を越波するほどの荒波が発生している。今年の1月から2月にかけて護岸まで砂が堆積し、荒波は減ったが3月には堆積した砂はなくなり、その後は荒波による越波が確認されている。

問 荒波対策を要望し、約4年が経過。荒波対策の進捗状況と今後の荒波対策は。

答 対策事業を行うため実施計画に計上し、検討を行っている。考え方としては荒波の原因調査を行い、その結果を踏まえ対策を作成したい。その後、対策案を自治区や関係者と共有し、意見交換などを踏まえ、柏原西方海岸にあった後戻りのない対策を進めていきたい。



荒波の様子

中央グラウンドの
改修

問 今年度、総合運動公園中央グラウンドは改修工事

のための設計を行っているが、グラウンドに設置された時計も故障したままになっている。

またグラウンドのトイレは花美坂側にあるため、高齢者からは「山側にもトイレがあったらいい」との声がある。そこで町の考えを伺う。

答 時計は来年度の整備に向けて、関係課と協議を進めてみる。またグラウンド規模からみてもトイレの数は充足し、工事費やグラウンドの地盤沈下も進んでいるため、新たなトイレの設置は考えていない。しかし、今あるトイレは30年が経過している。改修工事が必要になった場合は、利用状況を踏まえ設置場所も含めて改修を検討する。

問 来年度以降、長期間の利
用制限があるかもしれない。今後のスケジュールは。

答 令和7年度中の契約、工事着工を予定している。工事計画やグラウンドの利用制限、期間などは決定していないが、グラウンドを長期間閉鎖することが見込まれる。そのためアッシーグラウンドや他のグラウンドへの振り替えを検討するが、全ての代替え地を提示するのは厳しい。方針が決定次第速やかに周知する。

田中

太



録画中継



町営住宅長寿命化計画

時代に沿った住宅政策を

環境住宅課長

早い段階で検討を行いたい

問 町営住宅や所得外住宅に多くの空き部屋があるにもかかわらず、今年度は9件の入居希望者数に対して3戸の提供数だった。その理由は。

答 近年、状態の良い空き部屋が減少している。使用可能な住宅に対して予算を確保し、整備を経て提供することになる。今年度は比較的新しい3戸が提供可能となった。

問 現在の町営住宅長寿命化計画で特に解決が必要な問題や課題は。

答 町営住宅などは、新緑ヶ丘団地と後水団地を除くと、築50年を経過する建物がほとんどである。これらの住宅は、老朽化が著しい。また、現状では単身者の入居できる住宅の提供ができない状況である。

答 エレベーター設置などは、高齢者などの福祉的な施策として一定の効果はあるが費用対効果は良いとは言えない。

問 2040年までに独身者が人口の約47%に達すると予測されている。増加していく独身者などが安心して入居できるようにしていくべきでは。

答 現状ではそれらに対応できないため今後の芦屋町人口ビジョンや高齢者比率を見据え検討していく必要がある。

問 年金のみで生活している高齢者には、住居費が大きな負担となっている。安心して生活ができる住まいを確保することで生活の安定と、福祉の向上が期待できるのでは。

答 公営住宅法に基づき、低所得の方へ低廉な家賃で賃貸し、安心と社会福祉の増進に寄与することが目的であると認識している。

問 2040年問題を踏まえ、計画の見直しや改定は急務だと考える。これから先、高齢化がさらに進んでいく中、単身高齢者なども安心してこの町で暮らしていけるような住宅政策が必要ではないか。

答 今後の単身者と高齢者の増加を踏まえ、令和8年度に見直しを行う長寿命化計画の段階で、これからの時代に対応できる町営住宅像を早い段階で検討し、示していく。



改修中の緑ヶ丘団地



遠賀川流域から出る海岸漂着ごみ

ごみ処理基金は絵に描いた餅

環境住宅課長

柔軟な活用を働きかける

問

11月18日の強風と大波により柏原西方海岸に大量のごみが打ち上げられた。漂着したものは遠賀川上流から流れ出たものだが、町は迅速に対応し漁協に協力を求め漂着ごみの回収を行った。

答

この間、漂着ごみの回収に時間がかかり作業時には多くのごみは海に戻された。今後も漁協を活用する仕組みを強めるべきではないか。

問

漂着ごみの多くは遠賀川から流れ出たものである。ごみ処理の基金が作られているが活用されているのか。

答

基金の活用は河口堰を全開することが条件なので一度も活用されていない。

問

堰が全開でなくても被害実態で活用させるべきだ。

答

協議会と幹事会の事務局の遠賀川河川事務所に基金を柔軟に活用できるように強く働きかける。



西方海岸の漂着ごみ

問

福岡県は令和3年1月にワンヘルス推進条例を制定している。県内でも半数の自治体が推進宣言を表明している。海や川、山があり、多くの生態系が生存する芦屋町でも表

ワンヘルス推進宣言

答

明すべきでないか。

ワンヘルスとは人と動物の健康と環境の健全性を一つと捉え一体的に守っていく

理念である。町の総合振興計画やSDGsとも関連があり、宣言を含め調査研究を行う。

船舶座礁事故

問

狩尾岬沖で2隻の船舶が座礁し、漁業者の生業と環境への影響が心配される。町の支援の考えを伺う。

答

海上保安庁や漁船保険会社が座礁船の撤去などの対応にあたっている。12月中旬に燃料抜き取り作業を行い、座礁船の撤去は今春になる見込み。

漁港区域付近のことであり、

情報収集に努め、漁協や関係機関と情報共有をはかり調整に努める。



あしや砂像展の今後の在り方

あしや砂像展は継続するのか

産業観光課長

雨対策を講じて継続する

問 あしや砂像展の魅力は、
どんなところか。

答 世界のプロ彫刻家が制作
するクオリティの高い
砂の彫刻や美しいロケーション
で国内唯一のイベントである。

問 砂像展は今後も継続して
開催するのか。

答 芦屋ならではのイベント
であり、継続していく。

問 砂像展を継続するための
課題は何か。

答 継続するには雨対策と水
はげが悪いこと、長年使
用した砂の劣化が課題であり、
これらの対策の検討を進める。

問 工業部会（商工会）が型
枠工事を担っているが、
元請け業者を決めるべきでは。

答 今のところ工業部会が砂
像独特のノウハウを持つ
ているので、その考えで進めて
きている。

問 屋根の設置場所は現在の
場所かレジャー港化計画
用地ではないかと思うが。

答 産業観光課としては現会
場での課題を検討する。



あしや砂像展 メイン砂像

山鹿排水機場の排水 ポンプの処理能力

問 豪雨の都度、山鹿地区の
道路などが冠水する。唐
戸の排水ポンプ新設を遠賀川河
川事務所に要望しているが、そ
の後どうなったのか。

答 床上浸水被害の解消とい
う予算採択の基準に対し
実績がないこと、予算的にも大
規模な事業となるため行うのは
困難であるとの回答である。

問 排水ポンプは改修と新設
のどちらで対応するのか。

答 新設はないが、ポンプを
分解して大規模な点検が
行われている。

問 排水ポンプ車は遠賀川河
川事務所は何台配置され
ているのか。

答 3台所有されている。優
先順位はあるが貸し出し
も可能である。

問 住民の不安を解消するた
め、町で新たな場所に排
水ポンプを設置してはどうか。

答 山鹿地区堤防整備事業な
どの関係もある。今後い
ろいろな方策を見据えながら検
討しないといけない。

町民の生活習慣病の傾向と対策

学校との健康対策の連携を

健康・こども課長 来年度検討したい



ながしま つよし
長島 毅

録画中継

問 国民健康保険加入者の特定健診の受診率は。

答 令和5年度の受診率は41.5%である。

問 3年度県ワースト1位だった町民メタボ率の推移は。

答 60市町村中、4年度は上から4番目、5年度は上から3番目である。

問 小中学生の肥満率は。また郡内他町と比べて、どのようなことが言えるか。

答 小学生がおおむね7人に1人。中学生はおおむね6人に1人である。肥満傾向児の割合は、郡内他町より高い。

問 小中学生へ予防啓発など健康教育はしているのか。

答 学校保健安全法に基づく健康相談や保健指導、保護者への指導助言を行っている。

問 大人と子どもの健康は連携して対策すべきでは。

答 来年度、次期健康増進計画を策定する中で学校との連携を検討したい。

問 高血圧の人の割合と推移はどうか。

答 5年度の特定健診受診者で高血圧該当者は25.1%、65歳から74歳までは28%である。

問 血圧計を中央・東・山鹿の3公民館に置けないか。

答 設置することは考えていない。

問 期間や台数を限定してレンタルや購入補助の検討は。

答 レンタルは考えていないが、今後施策を検討する上で参考にした。また補助は購入後の確認などの課題があり現時点では難しい。

問 地域の生活習慣病の特色と原因をどう捉えているか。

答 県内でもメタボ該当者の割合が高い。アンケート調査の結果では、運動量が不足している人が多いと思われる。

問 役場1階の血圧計の周辺を健康コーナーにしては。

答 スペースの都合上、機器の増設は難しいが啓発物などを設置したい。



役場1階の血圧計のあるスペース

貝掛俊之



録画中継



公営企業（下水道事業・ボートレース事業）

北九州市と統合するべきでは

副町長 協議していく

問 芦屋町の下水道料金は近隣自治体と比較してどうなのか。

答 芦屋町が3460円に対して水巻町が月3460円、遠賀町・岡垣町は月3410円で、北九州市は県内で最も安く月2248円である。

問 老朽化により、増加する改築更新費用や過度に一般会計からの繰入金に頼ることのない適切な経営を行っていくことは非常に難しい問題であるが、これらの問題を解消しながら安定的に下水道事業を継続していくために、具体的にどのような取り組みをしているのか。

答 1つ目は、下水道料金の適正化である。4年ごとに使用料改定を考えている。

2つ目は、耐震化である。令和7年度に液状化リスクの高い地域を調査し、下水道施設などの耐震化計画を策定する予定である。

3つ目は、官民連携、民間活力の導入である。公共と民間が連携しそれぞれの強みを生かすことにより、最適かつ効率的な公共サービスの提供を実現し、住民満足度の最適化をはかることを目指し、導入の可能性の検討を進める。

4つ目は、広域化、共同化である。浄化センターを廃止したあとにポンプ場化し隣接する市の公共下水道へ接続させるものである。処理施設の統合が実現すると、施設の集中管理も可能となり大きく経費節減がはかれる。近隣自治体と協議を重ね、実現可能性の検討を進める。

問 町の財政負担、住民負担の軽減を考慮すると、先行投資も必要だが、北九州市との連携、共同化をするべきでは。

答 下水道事業は将来にわたり大きな課題である。相手方もあることなので引き続き協議を続けていきたいと考えている。

問 ボートレース場駐車場の有効活用として、スケートボードパークやフットサル競技場など、近隣の人が集える活用を考えていくべきではないか。

答 現在、業界ではボートレース場コミュニティパーク化が推進されている。駐車場の有効活用はこのような整備も含めて検討していきたい。

ボートレース芦屋の敷地の8割が借地であるため、実現可能な整備の仕方を検討していく。



芦屋町浄化センター

民生文教委員会 視察

日程：10月7日（月）～9日（水）

場所：高梁市役所、^{たかはし}奈義しごとえん、^{なぎ}奈義町役場、小野市役所

参加者：萩原洋子、田中太、中西智昭、川上誠一、松岡泉、長島毅

地域と協力した子育て支援

近年、芦屋町でも少子化が進行しています。そこで子育てや教育をテーマに4カ所の自治体などを視察しました。

1点目は、高梁市の「パパ・ママ子育て応援企業」という取り組みです。子育て宣言する地域の企業に市が奨励金を交付する事業で、働くパパやママが子育てしやすいまちづくりに取り組んでいました。

2点目は、人・地域・仕事をつなぐ「奈義しごとえん」です。高齢者や子育てママなどに仕事を依頼し「ちょっとだけ働きたい人」と「ちょっとだけ手伝ってほしい人」をつなぐ事業を行っていました。

3点目は、「なぎチャイルドホーム」です。

ボランティアの子育てママが自分たちで考え活動する地域と子育ての拠点施設でした。このように地域を巻き込み課題解決する手法は素晴らしいと感じました。今後はこの視察での学びを生かし、先進地の取り組みは芦屋町でもできるのか調査研究し、政策提言につなげていきたいと思っています。（萩原）



なぎチャイルドホームにて

総務財政委員会 視察

日程：10月30日（水）～31日（木）

場所：ポートルース大村、ポートルースからつ

参加者：本田浩、香田一之、内海猛年、辻本一夫、貝掛俊之

進化するポートルース場モーヴィとグリーンを視察

ポートルース場はレース以外で誰もが楽しめるサービスとして、アミューズメントパークの機能強化をはかっています。全国売上1位の「競艇発祥の地」ポートルース大村は2015年3月に観戦スタンドの大幅リニューアルが行われました。その後スケートボードパークやボルダリング施設、遊具などの施設改善がはかられています。

またポートルースからつではブックカフェ、音楽スタジオ、キッチンスタジオなどの施設改善がされており、各施設の利用者増加は今後の芦屋町の交流人口向上の参考となり、観光化にも期待できます。

このような充実したポートルース施設改善の波及効果としては住民の住んで良かった町づくりに貢献できると感じました。（本田）



ポートルース大村 グリーン前にて



ポートルースからつ ブックカフェ前にて

1 期目議員等研修会

日 程：10月31日（木）

場 所：福岡県自治会館

行政サービスのための予算・決算審議というテーマの研修会。講義では、他市町村の財政状況資料集などを基に細かく解説があり、見識を深めました。行政経営のいろいろな取り組みが始まっていく中、制度開始当初だけではなく、継続的に注視・質問していくことの重要性を再認識することができました。持続可能な行政サービスの提供と、住民の福祉の増進につなげていきたいと思ひます。（田中）



研修会場にて

地震津波避難訓練

日 程：11月16日（土）

場 所：総合体育館

芦屋町が行った地震や津波を想定した避難訓練を見学しました。会場となった総合体育館では避難者のスムーズな受け入れや避難者用テント、簡易トイレの組み立てなどの訓練が行われていました。

私たちが避難者用テントの組み立てに挑戦してみましたが、なんとか無事に組み立てることができました。非常時用のテントは誰でも組み立てられるようにできているんですね。（香田）



テント組み立ての様子

議会を傍聴しませんか！

議会傍聴は、町民が町政に参加する機会のひとつです。ぜひお越しください。

**次回の定例会は
2月26日開会予定**

詳細は議会事務局にお問い合わせください。

TEL 093-223-3579

議会録画中継配信中

詳しくは、芦屋町ホームページをご覧ください。なお、配信は本会議終了から7日後（土日祝日のぞく）です。



録画中継で見た表決の様子



録画中継ページ

町村議会広報研修会・ 広報クリニック

日 程：11月25日（月）

場 所：博多サンヒルズホテル

今年の広報研修会は町民の皆さまに「何だろう？」、「面白そう」と興味を持っていただく広報紙づくりをテーマに、紙面のデザインや記事の構成などについて学びました。

また広報紙を評価する広報クリニックでは芦屋町議会が発行している議会だよりの良い点や改善すべき点などを具体的にコメントしていただきました。これからも読みやすくわかりやすい議会だよりを目指してがんばります。（香田）



研修会場にて

町かど インタビュー



住民の生命と財産を守るために活動している消防団長にインタビューしたっちゃ!

住民の生命と財産を守る熱い思いの方、入団しませんか。

芦屋町消防団長に聞いた!



守田政孝消防団長

Q 消防団に入られてどのくらいですか?

A 入団して47年です。

Q 入団したきっかけは?

A 当時ガソリンスタンドでアルバイトをしており、そこから応援という形で消防団のお手伝いをしていましたが、そのうち芦屋町のために何かしたいとの思いで入団しました。



消火活動訓練の様子

Q 消防団の活動は?

A 有事の際には、消防署と連携した火災における消火活動、災害における住民の救助や避難誘導、行方不明者の搜索、危険箇所の警戒など多岐にわたります。また災害に対応するための訓練を行っているほか、各種イベントなどで地域防災の士気を高める啓発活動も行っています。



水害対策の土のう製作



花火大会での延焼防止作業
(ヨットハーバーあしや)

Q 今後の消防団の課題は?

A 団員が減少していることと、特に若い世代の団員を増やすために家族の理解ができるように活動しやすい環境を整えていかなければならないと考えています。

【発行責任者】
議長 内海 猛年

【議会広報常任委員会】
委員長 長島 毅
副委員長 貝掛 俊之
委員 本田 浩
委員 萩原 洋子
委員 香田 一之
委員 田中 太

編集後記

芦屋町議会には4つの委員会があり、それぞれ2年ごとにメンバー構成が変わります。よって、本委員会構成も今号が最後になります(涙)。この2年間「議会だよりあしや」はさらに見やすく読みやすい広報紙へと邁進してきました。

本当に多くの町民の皆さまにご協力を賜りこの場をお借りして感謝申し上げますとともに、次号からの「シン広報常任委員会」のことも何卒よろしくお願いたします。

長島 毅